

中之条町部活動に係る方針

平成30年5月

令和元年6月改正

令和2年4月改正

中之条町教育委員会

中之条町部活動に係る方針

平成30年4月1日
令和元年6月1日改正
令和2年4月1日改正
中之条町教育委員会

学校教育の一環として、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、スポーツや文化及び科学等に親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成等、生徒の多様な学びの場として、大きな意義をもつ活動である。

しかしながら、今日においては、社会・経済の変化等により、教育等に関わる課題が複雑化・多様化し、学校や教師だけでは解決することができない課題が増えている。とりわけ、本町においては、中之条中学校では各種の部活動が実施されているものの、六合中学校では、生徒数の減少により、部活動の種類が限られた中で実施せざるを得ない状況にある。

生徒が生涯にわたって豊かな生活を実現する資質・能力を育む基盤として、部活動を持続可能なものとするため、各自のニーズに応じた活動を行うことができるよう、国、県の方針を受けて管内中学校の部活動の在り方について検討する必要がある。町教育委員会では、県教育委員会において策定された「適正な部活動の運営に関する方針」に則り、「中之条町部活動に係る方針」を策定する。

管内中学校では、町の方針に則り、各部の休養日及び活動時間等を設定し公表すること、また、各部の活動内容を把握し、適宜、指導・是正を行う等、その運用の徹底に取り組むものとする。

1 適切な運営のための体制整備

(1) 部活動の方針の策定等

- 町教育委員会は、「国のガイドライン」に則り、「県方針」を踏まえ、管内中学校において、適正な部活動運営がなされるよう、「中之条町部活動に係る方針」（以下「町の方針」という。）を策定するものとする。
- 管内中学校は、「町の方針」に則り、毎年度、「学校の部活動に係る活動方針」（以下「学校の方針」という。）を作成し、全ての教職員が年度当初の職員会議等でその方針を確認するとともに、学校のホームページへの掲載やPTA総会、学校通信等を利用して保護者に説明し、共通理解を図る。さらに、地区別懇談会や学校公開等の機会を利用し、「学校の方針」を地域にも発信する。

顧問は、毎月の活動計画及び活動実績を作成し、校長に提出する。併せて、各部の活動方針について保護者会等で説明し、部活動の適切な実施について理解を得るとともに、練習計画や試合日程等を事前に示し、保護者の理解と協力を得られるようにする。
- 町教育委員会は、管内中学校において学校の方針・計画の策定等が効率的に行えるよう、簡素で活用しやすい様式の作成等を行うものとする。

(2) 指導・運営に係る体制の構築

- 校長は、生徒や教師の数、外部講師等の配置状況を踏まえ、指導内容の充実、生徒の安全確保、教師の長時間勤務の解消等の観点から円滑に部活動を実施できるよう、適正な数の部を設置するとともに、この方針を生徒や保護者に明確に示す。
- 町教育委員会は、管内中学校の生徒や教師の数、外部講師の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員の制度を効果的に活用し、学校に配置するものとする。また、従来の外部講師も必要に応じて活用していく。
なお、部活動指導員や外部講師の任用・配置に当たっては、学校教育について理解し、適切な指導がなされるために、任用前に以下の事項について指導するものとする。
 - ①部活動の位置付け、教育的意義。
 - ②生徒の発達の段階に応じた科学的な指導。
 - ③安全の確保や事故発生後の適切な対応。
 - ④生徒の人格を傷つける言動や体罰は、いかなる場合でも許されないこと。
 - ⑤サービス（部活動指導員においては校長の監督を受けること、生徒、保護者等の信頼を損ねるような行為の禁止等）を遵守すること。
- 校長は、顧問の決定に当たっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教師の他の校務分掌や、外部講師の配置状況を勘案した上で行うなど、適切な校務分掌となるよう留意するとともに、学校全体としての適切な指導、運営及び管理に係る体制の構築を図る。
- 校長は、毎月の活動計画及び活動実績の確認等により、各部の活動内容を把握し、生徒が安全に活動を行い、教師の負担が過度とならないよう、適宜、指導・是正を行う。
- 町教育委員会は県教育委員会と連携し、顧問を対象とする指導に係る知識及び実技の向上のための研修や会議等を開催する。また、学校の管理職を対象とする部活動の適切な運営に係る実効性の確保を図るための情報提供や会議等を実施するものとする。

(3) 生徒のニーズを踏まえた部の設置

- 校長は、生徒の運動・スポーツに関するニーズは、競技力の向上以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行える等多様であることから、季節ごとに異なるスポーツを行う活動、競技志向でなくレクリエーション志向で行う活動等、生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる部の設置について検討する。文化部についても、運動部と同様に、生徒のニーズを踏まえた部の設置について検討する。
- 町教育委員会では、生徒の活動の機会が損なわれないよう、合同部活動等の取組について検討するものとする。

(4) 地域との連携等

- 町教育委員会及び校長は、生徒のスポーツ及び文化環境等の充実の観点から、学校や地域の実態に応じて、地域のスポーツ及び文化団体等との連携、保護者の理解と協力、民間団体・事業者等の活用による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域における環境整備を進めるものとする。
- 町教育委員会及び校長は、学校と地域・保護者が共に子供の健全な成長のための教育、スポーツ及び文化環境等の充実を支援するパートナーという考え方の下で、こうした取組を推進することについて、保護者の理解と協力を促すものとする。

(5) 部活動検討委員会の設置

- 校長は、適切に部活動を実施するため、学校職員、保護者、地域スポーツ関係者、地域文化関係者、地域医療関係者等で組織する部活動検討委員会を設置するものとする。
なお、委員会の設置に当たっては、学校評議員会など、既存組織を活用し、できる限り教職員等関係者の負担軽減を図るよう工夫する。

2 合理的でかつ効率的・効果的な部活動の推進のための取組

(1) 適切な指導の実施

【町教育委員会】

- 学校における以下の取組が徹底されるよう、学校保健安全法等も踏まえ、適宜、支援及び指導・是正を行うものとする。

【校長及び顧問】

- 部活動の実施に当たっては、文部科学省が平成25年5月に作成した「運動部活動での指導のガイドライン」に則り、生徒の心身の健康管理（スポーツ障害・外傷の予防やバランスのとれた学校生活への配慮等を含む）、事故防止（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。

【顧問】

- 運動部活動の実施にあたっては、以下の点に留意する。
 - ①運動部においては、スポーツ医・科学の見地から、トレーニング効果を得るために休養を適切に取ることが必要であること。
 - ②過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解する。
 - ③生徒の体力向上や、生涯を通じてスポーツに親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能や記録の向上等それぞれの目標が達成できるようにする。
 - ④競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等によ

り、休養を適切にとりつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

- ⑤専門的知見を有する保健体育担当の教師や養護教諭等と連携・協力し、発達の個人差や成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行う。

- 文化部活動の実施にあたっては、以下の点に留意する。

- ①文化部においては、生徒のバランスのとれた健全な成長の確保の観点から休養を適切に取ることが必要であること。
- ②過度の練習が生徒の心身に負担を与え、文化部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解する。
- ③生徒の芸術文化等の能力向上や、生涯を通じて芸術文化等に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能等の向上や大会等での好成績などそれぞれの目標を達成できるようにする。

- 指導に当たっては、生徒との信頼関係の下に、互いを尊重し合いながら活動を進めることが大切であり、身体に苦痛を与えたり高圧的な態度をとったりするような指導は行わないこと。

- 分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的な練習の積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

(2) 体罰等の許されない指導の未然防止

学校教育の一環として行われる部活動では、指導と称して殴る・蹴ること等はもちろん、懲戒として体罰が禁止されていることは当然である。また、指導に当たっては、生徒の人間性や人格の尊厳を損ねたり否定したりするような発言や行為は許されない。

校長、顧問及びその他の学校関係者は、部活動での指導で体罰等を厳しい指導として正当化することは決して許されないものであるとの認識をもち、それらを行わないようにするための取組を行う。

なお、学校関係者のみならず、保護者等も同様の認識をもつことが重要であり、学校や顧問から積極的に説明し、理解を図る。

3 適切な休養日の設定等

(1) 適切な休養日等の設定

適切な休養を伴わない行き過ぎた活動は、生徒にとって、心身に無理が生じること（スポーツ障害やバーンアウトの予防の観点、生徒のバランスのとれた生活と成長の確保の観点など）から、生徒の健康のことを考えるとともに、部活動以外にも多様な活動を行うことができるようにするために、休養日や活動時間等を設定することが重要である。

また、教員の負担軽減や長時間労働の解消のためにも休養日や活動時間等を設定することが重要であり、そのため、年間を通して計画的に、適切な休養日等を設定する。

① 週当たりの休養日の設定

- ・週2日以上（平日に1日と土・日曜日のいずれか1日は必須）の休養日を設定する。

※ 大会参加等により、やむを得ず土・日曜日に活動する必要がある場合は、代替休養日を確保する。

② 長期休業中の休養日の設定

- ・長期休業の意義を考慮して、土・日曜日は休養日とする。また、生徒が十分な休養ができるようにするとともに、部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間を設けること。

※ 大会参加等により、やむを得ず土・日曜日に活動する必要がある場合は、代替休養日を確保する。

③ 活動時間

- ・合理的でかつ効率的・効果的な活動を行い、長くとも平日では2時間程度で活動を終えることとする。学校の休業日（学期中の土・日曜日を含む）では、3時間程度で活動を終えることとする。
- ・練習試合等で終日の活動となる場合でも、生徒の健康管理に十分配慮して、休憩時間を適切に設定し、無理のない活動とする。

(2) 朝練習の実施

朝練習の効果だけでなく、生徒の健康状態や活動意欲、学習や家庭生活等を配慮するとともに、指導する教職員の長時間労働の解消についても検討した上で実施する。

〈年間練習計画への位置付け〉

- ・職員会議等で検討するなど、教職員間の共通理解を図るとともに、生徒や家庭との連携を密にして実施する。特に、やむを得ず実施する場合には、希望者のみとし、部単位で一律、一斉に行わないよう配慮する。
- ・放課後の練習時間が十分に取れる日は、原則として行わないようにする。

〈家庭との連携〉

- ・朝練習を行う趣旨や効果等について、生徒と保護者・顧問等が十分に話し合い、生徒の主体性を尊重し実施するようにする。

4 安全管理と事故防止

(1) 事故防止の留意点

- 校長及び顧問は、県教育委員会の「部活動における重大事故防止のための安全対策ガイドライン」を活用し、計画的な部活動により、各生徒の発達の段階、体力、習得状況等を把握し、無理のない練習となるよう留意するとともに、生徒の体調等の確認、関係の施設、設備、用具等の定期的な安全確認、事故が起こった場合の対処の仕方の確認、医療関係者等への連絡体制の整備に留意する。

- 校長及び顧問は、複数の部活動がグラウンドで行われる際の安全対策として、安全な活動場所を確保するとともにグラウンド使用のルールの明確化等

の安全対策を行う。また、部活動における顧問の関わり方について確認するとともに、事故発生時及び未然に防ぐための対応として、職員研修の実施や危機管理マニュアルの見直し、AED設置場所の検討を行う。

- 顧問は、生徒自身が安全に関する知識や技能について、保健体育等の授業で習得した内容を活用、発展させたり、新たに身に付け、積極的に自分や他人の安全を確保したりすることができるようにする。

(2) 熱中症事故の防止

- 町教育委員会及び校長は、熱中症事故防止の観点から、「熱中症予防運動指針」(公益財団法人日本スポーツ協会)や暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度))等を参考に、気象庁の高温注意情報が発せられた当該地域・時間帯における屋外の活動を原則として行わないようにする等、適切に対応する。

- 町教育委員会及び校長は競技団体等の関係機関と連携を図り、高温や多湿時において、主催する学校体育大会やコンクールが予定されている場合については、大会やコンクールの延期や見直し等、柔軟な対応を行う。

なお、広域的な大会等でやむを得ない事情により開催する場合には、

- ①参加生徒の適切な選別をすること。
- ②こまめな水分・塩分の補給や休憩を取得すること。
- ③観戦者の軽装や着帽等、生徒の健康管理を徹底すること。

また、熱中症の疑いのある症状が見られた場合には、

- ①早期の水分・塩分の補給や体温の冷却をすること。
- ②病院への搬送等、適切な対応を徹底すること。

(3) 事故への対応

- 校長及び顧問は、万一、事故が発生した場合には、適切な応急手当を行い、状況によっては負傷者を医療機関に搬送することや二次災害を食い止めるなど、事故による被害を最小限にとどめるよう努める。また、日頃から校内等の緊急体制が有効に機能するよう全教職員の役割分担や手順を明確にしておくとともに、AEDの配置場所についても周知徹底する。

5 学校単位で参加する大会等の見直し

- 町教育委員会は、県教育委員会と連携し、各校が参加する大会・コンクール等の全体像を把握し、週末等に開催される様々な大会等に参加することが、生徒や顧問の過度な負担とならないよう、大会等の統廃合など、主催者に要請するとともに、学校単位で参加する大会等について検討する。

- 校長は、生徒の教育上の意義や、生徒や顧問の負担が過度とならないことを考慮して、各部が参加する大会等を精査する。

6 小学校段階におけるスポーツや文化等の活動

- 小学校段階においても、スポーツや文化等の活動を実施している場合がある。こうした活動については、地域によって多様な形態で行われているが、

少なくとも学校教育の一環として行われるものについては、学校において、児童の発達段階や教師の勤務負担軽減の観点を中心に考慮し、保護者及び地域の理解を得ながら休養日や活動時間を適切に設定する必要がある。

- 児童の安全管理と事故防止についても、本方針「4 安全管理と事故防止」に準じて、適切な対応を取るように留意する。

終わりに

- 「町の方針」は、管内中学校の実情を踏まえ、生徒の視点に立った部活動の改善に向けた具体的な取組について示すものである。

本町においては、国、県の動向などを注視しながら、競技力や技能の向上の観点からも、競技団体や文化部活動に関わる組織等の関係機関とも連携を深め、さらなる適正な部活動の運営を推進していくこととする。